

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-63C	16-098	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Alcohol consumption and prostate cancer incidence and progression: A Mendelian randomization study . 飲酒と前立腺がんの罹患と進展: A Mendelian randomization study		
<b>執筆者</b>		
Clair Brunner, Neil M. Davies, Richard M. Martin, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Cancer. 2017 Jan 1;140(1):75-85. doi: 10.1002/ijc.30436.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、前立腺がん、アルコール代謝遺伝子、メンデルランダム化		27643404
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> アルコール代謝遺伝子変異と前立腺がんの罹患および死亡との関連を調査した。		
<b>方法：</b> 米、豪、欧州諸国の参加する前立腺がん国際コンソーシアムである PRACTICAL の 25 研究から、前立腺がんの男性 23,868 人とコントロールの男性 23,051 人のデータを解析した。Gleason scores を用いて前立腺がんの悪性度を判定し、6 点以下で低悪性度、7 点以上で高悪性度とした。対象者の遺伝子型はカスタマイズした Illumina Infinium genotyping array (iCOGS) により特定した。ロジスティック回帰分析および Cox 回帰分析により、8 種のアルコール代謝遺伝子（アルコール脱水素酵素: ADHs、アルデヒド脱水素酵素: ALDHs）における 68SNPs と前立腺がん診断および死亡の研究特異的な関連を悪性度別に評価した。メタアナリシスには固定効果モデルおよびランダム効果モデルを用いた。		
<b>結果：</b> アルコール代謝遺伝子変異と前立腺がん診断との関連の検討ではいずれの SNPs も Nyholt 閾値を超えなかったが、前立腺がん死亡との検討では、ALDH1A2 と ALDH1B1 上の 4SNPs が Nyholt 閾値を超えた。前立腺がん死亡に関連する ALDH1A2 の 3SNPs は、rs1441817 (固定効果モデルハザード比[HR <sub>fixed</sub> ]: 0.78; 95%信頼区間[95%CI]: 0.66, 0.91; p 値: 0.002; I <sup>2</sup> : 19.4)、rs12910509 (HR <sub>fixed</sub> : 0.76; 95%CI: 0.64, 0.91; p 値: 0.003; I <sup>2</sup> : 23.0)、rs8041922 (HR <sub>fixed</sub> : 0.76; 95%CI: 0.64, 0.91; p 値: 0.002; I <sup>2</sup> : 25.5) であった。これらは互いに連鎖不平衡である。ALDH1B1 では、rs10973794 (HR <sub>fixed</sub> : 1.43; 95%CI: 1.14, 1.79; p 値: 0.002; I <sup>2</sup> : 23.4) が低悪性度の前立腺がんの死亡と関連していた。		
<b>結論：</b> 飲酒は前立腺がんの罹患に影響を及ぼす可能性は低い、疾病の進展に影響するかもしれない。		